

第5学年 学年だより



杉並区立杉並和泉学園小学部
令和元年7月23日 No.6

学園長	田中	稔
担任	樋川	達郎
	野中	洋佑
	柳原	大輔
	牧嶋	彩
副担任	鈴木	八千代

確かな学力を育む取組

この1学期の間、各教科の授業内容をより定着させるために、協働学習を推進したり、学び残しやつまずきを減らすための個別学習を充実させたりするなど、授業改善に取り組んできました。また、2学期以降は、5月に実施した「杉並区特定の課題に対する調査」の結果を踏まえながら、さらなる改善に取り組んでいく予定です。今後、より一層一人一人に確かな学力を定着させることができるように、保護者の皆様と今まで以上に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと考えています。ご理解、ご協力の程、よろしく願いいたします。

＜学園における学力向上の取組＞

- ・校内研究を通して、「思考力・判断力・表現力等」の向上を目指しています。一人一人がじっくりと考える時間を確保するために「個で思考する」→「話し合い、ICT活用を通して思考を共有する」→「自分の考えを問い直す」流れを大切に授業づくりを行っています。
- ・小学部と中学部の教員が話し合い、9年間のつながりのある学習を展開しています。今までに学んだことを生かし、さらに知識・技能を身に付けることができるようにしています。

＜地域と協力した学力向上の取組＞

- ・放課後学習（小学部木曜日、中学部水曜日）、夏のパワーアップ教室では、学校支援本部と協力して個別学習の充実を図っています。学園が開校してから4年目の取組となり、着実に成果が表れています。
- ・思考力を高める「わくわく算数レストラン」、知識・技能の定着を確認する「漢字・英語検定」を定期的を実施しています。意欲的に学ぶ姿がたくさん見られています。
- ・土曜日に学校支援本部が「手習い塾」を開催しています。小学部・中学部の児童・生徒が集中して自分の課題に取り組んでいます。さらに、多くの児童・生徒に参加してほしいと思います。

＜5年生における学力向上の取組＞

- ・一部教科担任制
→ **1・2組** 社会（野中）、理科（樋川） **3・4組** 社会（牧嶋）、理科（柳原）
各教員が担当する教科を絞ることで、きめ細やかな授業準備ができるようになります。それを、児童の深い学びへと繋げていきます。
- ・定期考査の実施
→学期末テスト（国語、算数、理科、社会）を1日にまとめて実施します。中学部のように学習計画を立て、自ら学習に取り組む習慣を身に付けることができますようにします。

5年 授業改善プラン

国語

- ・聞かれたことを文章から正しく書き抜く力
 - ・文章全体を正しく読む力
 - ・学んだことを自分の経験と結び付けて書く力
 - ・既習漢字を書く力
- などに課題が見られます。

授業改善ポイント

- ・文章を正しく読む力を高めます。
- 接続詞やキーワードとなる言葉に着目させながら文を読むようにします。
- ICTを活用するなどして、語と語、文と文のつながりを考えて読めるようにします。
- ・物語や説明文を読んで自分の考えを書く力を高めます。
- 書く時間の確保、感想を伝え合う活動を充実させます。
- ・言葉を正しく理解できるようにします。
- 辞書を引く習慣を付けていきます。
- 既習漢字の定着を図るプリント等に取り組みます。

社会

- ・「東西南北」「杉並区の位置」「都道府県の位置」「世界の主な大陸・海洋・国の位置」などの知識を身に付けること
 - ・複数の資料を正しく読み取り、比較したり、考えをもったりすること
- などに課題が見られます。

授業改善ポイント

- ・確実な知識の定着を図ります。
- 知識を定着させるために、復習プリントや地図帳を活用します。
- ・複数の資料を正しく読み取る力を高めます。
- 資料を読み取らせる際は、目的をもち、どのような視点で読み取るべきか明確にして取り組めるよう指導します。読み取った結果やそれについて考えたことを交流する時間を確保し、学習を深めていきます。

算数

- ・「図形の基礎的な問題から応用問題」「四則計算のきまりを使った問題を考えること」などに課題が見られます。

例

7 下のような立体の体積を求めましょう。
式・答 各5点(10)

式 $9 \times 4 \times 7 - 9 \times 4 \times 3 = 360$
 ① $9 \times 4 \times 4 + 9 \times 8 \times 3 = 360$
 ② $9 \times 8 \times 7 - 9 \times 4 \times 4 = 360$

(2) □にあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r} \square \square \\ \times \square 4 \\ \hline 6 \square \\ 1 \square \square \\ \hline 1 \square 8 . 4 \end{array}$$

(1) 2, 4, 6, 8 の4まいの整数のカードがあります。
3まい選んであ, い, うに入れて、答えがいちばん大きくなるようにしましょう。

あ × (い - う)

授業改善ポイント

- ・図形を正しく捉えたり、描いたりする力を高めます。
- 図形の向きや傾きに左右されない見方を養い、言葉とイメージを正しくつなげることができるよう、実際に実物を操作したり、ICTを活用して立体的に形を捉えたりすることができるようにします。
- タングラムなど、楽しみながら図形に触れる活動を取り入れていきます。
- コンパスなどの用具の使い方を再度確認するとともに、図形の性質等を考えながら作図できるようにします。
- ・計算方法の仕組みを理解する力を高めます。
- 計算方法の仕組みを理解することができるように、計算方法について気付いたことや理解したことを考えたり、伝え合ったりする時間を十分に確保します。
- カードを活用して、児童の学習への興味、関心を高めるとともに、理解を深められるようにします。
- 【カードを使った数遊びの例】
- ① 0～9までの数字が書かれたカードを裏返しにして、4枚選ぶ。
- ② 選んだ4つの数字と＋・×÷()を使って、10になるように計算式を考える。
- ※枚数を増やすと難易度が増します。車のナンバーなどで試しても面白いです。

理科

- ・ノートを取り方がやや雑で、考えをまとめたり、学習を振り返ったりすることに課題のある児童が見られます。
- ・何のために実験・観察しているのか、目的意識が希薄な児童が見られます。(観察や実験で、違う結果が出ることがあった)
- ・学習で得た知識を活用する力に課題が見られます。

授業改善ポイント

- ・課題、予想、計画、結果、考察、結論の学習の流れを常に行い、過程がわかりやすい板書をするのでノートに考えをまとめていく手本となるようにします。
- ・観察や実験の目的を明確にします。
- ・実験、観察がうまくいかなかったり、違う結果が出たりしたときには、その原因を考えさせます。また正しい知識の定着のために視聴覚教材やICT機器を活用していきます。
- ・実験や観察の結果をまとめる際には、なぜそのようになるのか、十分に考察させます。

5年生の家庭学習

家庭学習時間のめやすは？

60分 (10分×学年+10分)

百題

《月～金曜日》

音読、漢字らくらくノート、計算らくらくノート
※らくらくノートの代わりにプリントになることもあります。



- 授業で学習したことの復習
 - これから学習することの予習
 - 自分の課題(できていないところ)を克服するための学習
 - 興味・関心があることを追究する自主的な学習
- ※日記と自主学習ノートは、週に1回ずつ提出することになっています。

こんな学習をしてみよう！！

○知識・技能の定着を図る取組 ●思考力等を育む発展的な取組

国語

- 国語辞典を使う。(意味調べ)
- 新しい語句を使って文章を作る。
- 漢字・四文字熟語などを暗記する
- 音読・読書
読んだ本の題名、ページ数、感想などを記録しておくといいですね。
- 読書した本についての感想や意見をまとめたり、自分の生き方と関連付けて文章を書いたりする。
- 新聞記事について自分の意見をまとめる。

算数

- 教科書・ノートを見ながら、学習内容の復習をする。
- 例えば…
- ・計算練習
分数、小数のかけ算、わり算など
 - ・倍数、約数
公約数(最大)、公倍数(最小)
 - 文章問題を解く時に、自分で数直線や図を描いて立式する。(お家の人に説明する)
 - 発展問題に取り組む。

社会

- 教科書・ノートを見ながら学習内容を復習する。
- 地図帳に親しむ。
- 学習問題から疑問に思ったことや、さらに調べたいことを調べたり、実際に見たりする。
- 学習したことを活用したり、新たな課題を立て調べたりしたことをまとめ、自分の考えをもつ。

理科

- 教科書・ノートを振り返りながら学習内容を復習する。
- 学習問題から疑問に思ったことや、さらに調べたいことを実験したり調べたりする。
- 学習したことを活用する発展問題に取り組み、自分の言葉で説明する。

ご家庭に協力していただきたいこと

音読 ← 正しく読んでいるか聞いてあげてください。読んだ後に、内容を理解しているか質問をしてあげてください。

らくらくノート、プリントなど ← 終わったら内容を確認してほめてあげましょう。確認サインをノートにしてあげてもいいですね。

「勉強している様子を見守る」

「自分が習った時とは違っているの…」 「教え方が分からなくて…」 という声をよく聞きます。「勉強を教える」ことよりも、「勉強する環境を整える」「勉強している姿を見守る」ことが大切です。

生活習慣や学習への取り組み方を工夫させ、家庭学習が習慣化できるようにしましょう。

また、子供が自分の力に合った内容を選んで学習に取り組んでいるか確認してあげてください。

(何ができていないのか、どの力を伸ばしたらいいのか一緒に考えてあげてください。)

「3Hを大切に」

努力したこと、成長したことを具体的にほめることでやる気もさらに高まります。

ほめる … 「きれいに書けているね。」「集中して取り組んだね。」 など

はげます … 「間違いもあったけど、やればできるね。」

ひろげる … 「よくできたね。あなたなら、もっとこんなこともできると思うよ。」

「～についてさらに調べてみると楽しそうだね。」 など